

那珂市議会 原子力安全対策常任委員会記録

開催日時 令和4年11月7日（月）午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 武藤 博光 副委員長 花島 進

委員 關 守 委員 大和田和男

委員 笹島 猛

欠席委員 委員 富山 豪

職務のため出席した者の職氏名

議長 萩谷 俊行 事務局長 会沢 義範

次長 横山 明子 次長補佐 大内 秀幸

会議事件

(1) 議員と語ろう会で出た意見のとりまとめについて

…各意見の対応について協議

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 おはようございます。

本日は原子力安全対策常任委員会、ただいまより開会いたします。

ご参集賜りまして、大変ご苦労さまでございます。

開会前にご連絡いたします。

新型コロナウイルス感染症対策のため、委員会出席者におきましてはマスクの着用をお願いいたします。

また換気のため廊下側のドアを開いております。

ご理解のほどお願い申し上げます。

会議は公開しており傍聴可能でございます。

会議の映像は庁舎内のテレビに放映しております。

発言の際はマイクを使用し、質疑、答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。

携帯電話をお持ちの方はマナーモードをお願いいたします。

ただいまの出席委員は5名であります。

欠席委員は富山委員で1名でございます。

定足数に達しておりますので、これより原子力安全対策常任委員会を開会いたします。

本日は執行部の出席はございません。

職務のため議長及び事務局職員が出席しております。

まず議長からのご挨拶をお願いいたします。

議長 改めておはようございます。

冒頭委員長からお話がありましたけども、今日は議員と語ろう会の意見の取りまとめということで武藤委員長を中心にですね、ご協議のほどよろしくお願いいたしまして、挨拶に代えさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。

それでは議事に入ります。

議員と語ろう会で出た意見の取りまとめについてを議題といたします。

10月1日に開催された議員と語ろう会について、各会場での当委員会に関する意見について、サイドブックに掲載しております。

まず、意見や質問について対応方法を分類していきます。

1から3まであります。

①意見要望として賜り、執行部に伝えるもの。

②質問内容について調査し、回答が必要なもの。

③意見として聞くのみで対応しないものというふうになっております。

皆様方のご意見を賜りたく思いますので、まず1番からやっていきたいと思います。

この3つに分類した後、回答が必要なものに対しては、どのように調査し、回答案を作成するかを検討いたします。

最後に、委員会として引き続き調査や状況確認を行う必要があると思われるものは、対応を確認したいと思います。

それでは上から順に分類をまいります。

1番。

副委員長 この原子力の風評被害についてって、私、らぼーるで参加してなかったんで、何を言っているのかよく分かんないんですけど。

大和田委員 記憶が正しければ、農業者かなんかだったような気がします、違ったかな。

農業者のことで、風評被害、まさにそういう福島で当時もあったような原子力があることによって農産物の風評被害のつていうような感じだったんです。あるとかないとかって言うより、そういうのはどう考えてるのかだったような気がする。違いましたっけ。どちらかというとなら一般論、実情がこうだからああだからって話じゃなくて、一般論として、そういうのがあると思うんで、今後どうすんだみたいな、投げかけられた程でもないです。

だからもう、何か一緒くたな感じで、それに含めて、ちょっとらぼーるのを整理しますと、基本この3番のところあたりから始まり、そしてそれに付属して何かこう、関連みたいな感じで、2番、3番は多分これ一緒だと思うんですけど。

いつも言ってることだと思うんです。

瓜連地区に立地交付金がないというのが始まりで、原子力の風評被害とかもどうなんだとか、あとは、2038年までということで、私も2038年までと向こうからは聞いているところですよとしか言っていないんですけど。

ていうのが1番、2番、3番。

6番、7番が一気に追加、追加、追加みたいな形で質問されたっていうような。

委員長 発言者何名くらいあったんですか。

大和田委員 4人ぐらいかな、やはり原子力立地交付金の話、農業者の人が話しをして、再稼働2038年の話、また立地交付金っていう話だった記憶がありますね。

副委員長 そういう話であれば原子力の風評被害についてっていうのは、特に直接これへの回答として対応するんじゃないくて、これから東海第二発電所再稼働、議論する中で、こういうことも頭に入れて進めるってことかなと思います。

笹島委員 1番もそうですけど、1番2番、3番とらぼーるで、瓜連の方は前々から思っていて、興味あることだと思うんでね。これは意見として聞く対応っていう形ですよ。一般論での話しだからと思うんですけど。

副委員長 基本はそれだと思うんですけど、ただその電源立地交付金の制度がどうなってるかどうか、その交付の基準、それもちょっと調べて、こういうふうになってますけどみたいな話で、当面お答えするっていうのはどうですかね。

ちょっと私、ネットを調べたら何かいろんな交付金があっけ分かんない。

だから、勉強をしながら、ただ、私としてはこんなもん当てにしてどうすんだよっていうことがあるので、そんなに一生懸命やる気はないんですが、ただ、疑問には答えたほうが良いと思うので。

笹島委員 この原子力立地交付金っていうのは合併前、今、那珂町だけ。

それで、合併したから瓜連の昔の議員の方ね、今の議員の方は誰も言わない、非常に不満を持っていたわけですよ。

それも市民から挙がった、何でその那珂市になって、うちのほうでその交付金をもらえない、ただ1点だけなんです。だから、これずっとやっているんですよ。今もうほとんど、影潜めたんですけど。

ですから、これはちょっと申し訳ないですけど、これを議論する形っていうことじゃないと思うんですよ。

それ前、一般質問とかなんかでもやっていましたよね、昔その議員がね。と思うんで、軽く流してあげたほうが良いと思うんですけど。もうさんざんやったんです。昔の議事録には出ていると思うんです。とことん調べ上げたんですよ。昔ね執行部のほうでね。

ですから、今さらそう、なんて言うかな、掘り起こすことはないと思うんですけど。
副委員長 昔いろいろ意見言ってた人がまた言ってるってことなんですか。

笹島委員 もうその風潮になってんですよね。この瓜連地区の不満を、町全体っていうんですか、もう不公平じゃないかっていう、ただ1点だけなんですよ。だから、合併したのに何でうちのほうはその交付金、富山議員がいれば答えてくれんですけども。彼も前言ってましたよ、同じように。

ですから、瓜連地区のみの方なんですよ。

それは、ですからこれはもうずっと言われてる一般論の話で、もう何度もその説明はしているはずですよ。

副委員長 だったら、一人二人の話じゃないんだったら、やはりもう1回軽く調べて、軽くっていうのは失礼な言い方かもしれないけど、出しておいたほうがいいかなと思います。

昔決着ついた話だってだけでね、市民の意見をぼんと投げてはいけないかなと。

だから、そこは私やってもいいですよ。案をつくって、皆さんに、後で提示して意見もらってから、返答みたいな形で。

笹島委員 結論出てるんですよね。

この交付金は、旧那珂町の方のみで、向こうのほうは交付しませんよっていう結論出てますよね。

委員長 多分ね、電力の軽減だと思うんですよ。いわゆる郵便局あたりから戻金あるんですよ、

この使用分がね。その使用分に関して、旧那珂町は多分入っていると思うんですよ。

瓜連がもしかして入ってないのかもしれない、いわゆるその電気料の割戻金っていうやつがね、年間で何千円から1万円ぐらいですけど。

多分その事言っているんじゃないかと思うんだよね。家庭用のやつね。

笹島委員 それはもう結論出てると思えましたよ。

副委員長 これからこういう制度にしようとかそういう話はね、決着がついてるかもしれないけど、今こうなってるということになってますってやつを返したらいいんじゃないかということですよ。

だって制度なんて、完全に固まって一応あったって、変更を求めたりするのはけしからんという話じゃないわけですよ。

瓜連地区では、広くそういう不満があるんだったら、現状がどうなっているかぐらいは返したほうがいいと思います。

過去の経緯も必要だったら、やってもいいんですけどね。

だから、那珂市議会として、これを何とかしようとか真剣に、真剣じゃないな、大きな労力を使ってやるっていう話は、返すわけじゃないですけど、こういう経緯でこうな

ってますくらいの話は、書いても何の差支えないし、市民としてもね、言ったけど何もやらないっていうのとは違う形になるかなと思うんです。

それでどうでしょうかね。

だから、その文章なり何なり私なりに案を作りますよ。

笹島委員 そのらぼーるでは、この話に対して質問してきて、回答をどういう回答したの。

次長 君嶋議員が説明はしていました。

合併したときの経緯とか、議会としていろいろ動いたってということは……

笹島委員 その市民の方は納得したの。

次長 納得したかどうかは。

大和田委員 どちらかという、分かっているけど何度も何度もこういうような感じなんです。

それは君嶋議員もこうなんですよ、こうだったんですよと。

それは知っているんだけど、どうにかならないのかって言いたい感じが、ぼんぼんっていう要望なんですけど。

笹島委員 だから、我々もっと重要なことやることあるんで、いつもこれやっている。

載せられないよ。毎回同じことの繰り返し、お祭り行事みたいな。

副委員長 いや私もね、やりますと答えるつもりないですよ。

(複数の意見あり)

副委員長 やっているにしたって、私は一定の答えをしたらいいって言ってるんです。

だから載せられません。さっきも言っているように、大きな労力をつぎ込むような回答はしません。

ただ、現状とか、何かそういうのをちょっと返答したほうがいいでしょってことですよ。

それは君嶋議員答えたっていうんですけど。

はい、だから議会として聞いたって話を…

笹島委員 やりたくないの。

副委員長 いやだからやりたくないっていうのは、これを何とかするために…

(複数の発言あり)

副委員長 ちょっと待ってください、少しは私の話、発言させてください。

議会として、これこれやりますということは私は書きません。

あらかじめ言っておきます。だけど、こういう経緯があつてこうなってますっていう話だけは返しといていいんじゃないですか。

例えばこういうのを見てこういう意見が出たのに、議会は何にも答えてないってなったら、やはりね、それは何のためにやってんのかってことなんですよ。

それに、仮にね、何十年も前からある要求だからと言って、これ前から言われてるけど駄目なんだよなって、ただ黙ってね、無視、それはよくないと思いますよ。

今動けませんって答え、結局ね、そういうふうを書くかどうかは別にしてなるんです、私が案をつくれば。

だからそれで返したらいいんじゃないですか。

無視は私はよくないと思います。

逆に言えば何年も言っているってことは、根強い要望があるってことだと思います。

分かっているんです。だからいいです。

委員長 分かりました。

これについてはね、簡単な形でこれこれこういうことですよということで、②番について回答するということにしましょう。

じゃ、2番と3番は②。

1番については、意見として聞くのみで対応しないで③。

よろしいですね。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 続きまして、4番にいきます。

原子力発電についての子供の頃の話で、那珂市はデメリットしかないのではないかと
いう内容でございます。

これは大和田委員どんな感じで質問がありましたでしょうか。

大和田委員 まるっきりこのままです。

やはりこういうところ、多分どこの会場でもそうだったと思う。東海村は金があるから始まり、瓜連はそういうことで、那珂市はデメリットしかないのではないかと、何かそう言ってたけど、結局、これがまた電源立地交付金につながったんですよ。同じ人かどうかは覚えてないんですけど。その話から、瓜連もやはり恩恵はないよねっていう話に、これ瓜連の人ですから、メリットが一つもないわけですから、交付金がないわけですからというところなので、結局、立地交付金の話だと君嶋議員がこうですああですよってなっちゃうという感じです。

そうなので、私も3番というか、3番になっちゃうのかなと思います。

委員長 では、③でよろしいですか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 次5番。議会だよりの中に原子力安全対策常任委員会の意見交換会の日程が決まっていれば教えてほしい。

大和田委員 これは多分、議会だよりの中で勉強会をしますとか、そういう話を書かれたので、日程決まっているんですかって聞かれて、そのときは決まっていなかったんですよ。

日時が決まってないという回答にしかできなかったという内容なんですけども。

以上です。

委員長 会場では答えになったっていうことで。

大和田委員 なったというか、ならなかったという回答だったかと。

副委員長 これどのぐらい前だったら、議会だより載せられんですかね。

議会だよりの原稿をつくるのと、間隔何日って決まって、その時間が十分あるときとないときで。大体ないんですけど。

次長 議会だよりが年4回しか発行がないので、タイミングによっては載せられないことのほうが多いかもしれない、よほど前に決めてないと。

副委員長 大概無理ってことですよ。

委員長 そういうことですので、3か月に一遍の発行なので、なかなか難しいということらしいんですけど、これはそうすると何番になりますかね。

(「③番」と呼ぶ声あり)

委員長 ③番ですね。

次6番、原子力は再稼働してもっていう話ですけども、これはどういうことかかっていうことですね。

10年ぐらいしか稼働しないっていうのはどういうことか。

これは大和田委員どういう形でありましたか。

大和田委員 要は延長20年ということで、2018年から2038年までということだとすると、再稼働するとね、2038年まであと残り10年ちょいぐらいしか運転できないだろうと、採算あるのかとかそういう話もあったけど、結局、6番、7番は一緒になっちゃうんですけど、それ以上延長されることはないのかって話になって、結局、説明受けてるのはその時点では2018年から2038年まで20年と聞いております。以上です。で、終わったお話です。

いわゆるそこまではこちらとしても何も言えることではなかったもので、事実を言っただけで終わりにしました。

委員長 その発言者に納得したんですか。

大和田委員 納得はしましたが、多分納得したかしないかは別だけど、話はそれでもう実際は終わった感じですよ。

副委員長 若干ニュアンスはね。

委員長 では6番と7番は一緒に対応するということで、これはどういう、①から③だとどれに該当しそうですかね。

副委員長 みんな決まってないですよ。

要するに、40年プラス20年というのは一旦は決まったんだけど、それは今揺らぎつつある。

それから、そもそも東海第二運転できるかどうかも定かでない。

裁判では負けてるし、それから住民の反対も根強くある。

それから、いろんな避難計画の問題とか安全性の問題だけで危惧があるので、いずれも決まってないんですよ。

だから回答するんだったらそういう回答になるかなと思う。

笹島委員 決まっていない。

副委員長 40年というのは一応決まっていたんだけどそれだって、情勢によって変わりうることなんですよ。

笹島委員 ②番だね。

委員長 では、今笹島委員から②番ってということで出ましたので、6番、7番は②番にいたします。

これじゃ、回答者は花島委員で大丈夫ですか。

らぼーるのほうについては終わりました。

続いて、中央公民館。

8番、東海第二原発の再稼働についての勉強会は今後どうするのかということでございます。

進めていますですよ。

これじゃ、②番になるの。

(「進めていますで」と言う声あり)

委員長 9番、避難訓練は検討しているのか。

副委員長 市全体でということですか。

委員長 これ全体となっていますね。

(複数の発言あり)

委員長 ②番ですね。これちょっと僕のほうで答えて、本米崎地区では今度やりますよっていうのを伝えてありますね。

11月の何日かにやりますってのは伝えてあります。

市全体ではどうなんですかって話になったので、それについては今後の課題ですということでお答えしております。

次、ふれあいセンターよしの。

10番、東海第二再稼働で電気料金を安くしてほしい。

よしのの方いらっしゃいますか。

關委員 メモをとったんですが、今日はメモ帳のほうをちょっと持ってこなかったので、あまり記憶にないんですが…

大和田委員 10 番の話が出てきていきなり、市民の皆さんから再稼働で電気料金安くしてほしいと。そしたら今度は、もう 1 人の方が、いやいやいやと、私反対だと。

これ 10 番、11 番は市民間討論なんですね。で討論して、我々原子力安全対策常任委員会も議論してる最中ですのでっていう話で閉じました。

11 番の人は、福島までは原発は賛成だったんだけど、あれを見たらもう許すまじって言ったら、今度は賛成派の人が、あなた反対なんですね。

私反対だ、こっちは賛成だと、もうバトルして、もういい議論になった記憶が。

うちらは勉強で、積み重ねています。

特にうちらに対する云々かんぬんではないかな、大きな話を市民間で話したっていうような。

笹島委員 回答するもんじゃないね。

副委員長 それぞれ違う。

相対立意見があるのは承知しておりますって言って、今後どうするかは検討課題ですって回答かなと思うんですよね。

委員長 これは②。

副委員長 だけど、単に聞いて調査してっていう話じゃないですよ。

ただ単に回答すりゃいいんですよ。

だから、意見はいろんな意見あるのは承りましたで終わりですよ。

重要な問題なんで、今後も検討しますということですよ。

そのとおり聞くって意味じゃない。でも要望は出してるんですよ。してほしいって言ってんだから。

(複数の発言あり)

大和田委員 よく分かっている形なんだよ、我々議会に求めているというよりかは、本当にエネルギーの話じゃないけども、原子力が 1 番安い。で、安くしてほしいんだよっていうような、我々議会に対して、そういうのをどんどんやってくれ、声を上げてくれっていうような話ではない。

笹島委員 ちょっとこれは議会じゃなく東京電力に言うことじゃないの。

これ、いや電気料金安くしてほしいとかって、10 番はね。

副委員長 東京電力に言ってるかもしないけど、議会だって例えば原発再稼働を認めなければ、彼は再稼働してほしいんですよ。

それで電気料金安くなるかって別の話ですけど。

だから何て言うのかな。検討課題でしょう。結局我々全体の、議会全体の、これまで進めている検討の中の一意見だから、いろんなことを考えて、総合的に判断しなきゃならないって、こういう意見があることを承ったというだけですよね。

その10番も11番も。

②番だけど調査は特にはないですよ、簡単に回答だけですよね。

これは②番で回答のみということにいたします。

委員長 それでは、これ、模範回答は。

副委員長 模範じゃないですよ。回答案ですよ。

委員長 回答案は副委員長でよろしいでしょうか。

副委員長 はい。

委員長 ではそれで回答案をつくっていただきます。

次回の12月定例会の常任委員会で、調査検討の報告と回答内容の決定を行いたいと思いますので、それまでの準備をお願いしたいと思います。

その後意見要望として、執行部に伝えるもの、もしくは回答が必要なものについては、回答を議会運営委員会のほうに報告することとなっております。

最後に今回の意見の中で委員会としての調査を行うべきものは特にございますか。

委員会としての調査特になし。

(「なし」と呼ぶ声あり)

委員長 ではなしということでございますので、この件についてはこれにて終わりいたします。

続いて副委員長のほうから、勉強会についての発言についてございますのでお願いいたします。

副委員長 この間、エネルギー庁の方に来てもらったんですが、原発に批判的な意見もやはり聞いていかなきゃいけないってことで、私が考えなきゃいけないんですが、反対意見も、いろんな見方の意見があって、何ていうかな、個々に誰を呼ぶかっていうところが難しくはないんですけど、何を中心にしたらいいかってのちょっと考えてるところなんです。

それで、まず私が、総合的な話を全体図をお話して、その中で、こういう側面についてもっと聞きたいよとかいうのは議員の皆さんからあれば、そっちのほうにふさわしい人を選んで、説明するという形で進めたいと思うんです。

ですので、まず私が皆さんにお話しして質問を受けて答えられるものを答えて進めて、その次にどっか外部の方を招くことを考えたいと思うんですがいかがでしょうか。

笹島委員 私前々から聞いたかったんですけどね、要するにここの那珂市は、ひたちなか市とか東海村とかっていう一応人口密集地で、非常にまれな原子力立地なんですよ。

ほかはどこをとっても岬のところですね。

非常に不便なところで人口も本当に何千人とか、人よりも動物が多いようなところ多いでしょう。

だから、そこで云々っていうのはそれは誘致して云々って言って、住民のほうは反対するどころか、稼働してもらいたいっていう人が多いじゃないですか。

ここはまた別の特殊なところなんだよね。

この事情をよく分かっててね、この今の過密都市で云々っていう世界各国見ても例がないんです。

詳しく教えてくれる人いないのかなあとって前々から思ってるんですけどね。

ほんと特別だと思うのね。まして東京都心にもっとも近いところなんですよね。

ですから、それは何か話を聞きたいなと思うんですが、ここエリアだけでね。

委員長 ほんとですね。

副委員長 それは何でそうなったかっていうと二つあって、一つは、東海村に原子力研究所ができて、あそこを一つのセンターみたいにしようというふうにあった。

そのときに、危険認識はあまりなかったんですよ。

原子力研究所ができた、造るときは結構、その原子力施設から周辺人口密集地帯を避けたとか、そういう基準が外国でもあったんですよ。

だから、アメリカなんかで結構初期に原子炉が爆発したような事故があったんですが、住民に対して被害ってのはもうほとんどなかったです。

スリーマイルよりずっと以前の話です。

砂漠みたいところに造ったわけですよ。

だけど、日本の場合はなぜかあそこに造り、まだ東海村がちいちゃかったときはよかったですけど、その後、原子力産業会議というのがあって、そういうところなんかが、要するに原子力開発センターを造ろうっていう構想を持って、東海村にいろんなもの集中されちゃったらしいんですね。

その中で、原研の敷地の一部を当時借りて、今は違いますが、日本原電が原発を造ったと。

もう一つの要因が、何ていうかな、危険があるかないかっていう単純発想があると思うんですよ。

危険が多くの人には怖いわけですけど、でも原発安全なんだって言ったら、どこでも造れるじゃないかみたいなふうになる。かといって東京はさすがにね、よっぽどばかじゃない限り、造ろうとは考えなかったようですね。

それであそこにできているかなと。

笹島委員がおっしゃったように世界的にこんなところ多分ないよね。

私議員になってから、いろいろ調べたんですけど、原子力国際原子力機関というのかな、IAEAっていうのがあるんですが、そこにいろんなことを基準を書いたんですが、その中で立地を審査をしろって言うてんですよ、アセスメント。

要するに周辺にいろんな資産とか人口があるかないかをちゃんと評価しろって書いてあるんです。

それに従ったら当然駄目ですよ。

だけど日本はなぜか無視してます。

だから世界一の何とか基準とか、誰か言って、私は1番だの2番だの、ビリだのどうでもよくて、一定の基準を何ていうかな、安全性があればいいし、なきゃ駄目って、その境目がぼやけてるわけですけど、そういう考えになっていますけど、それにしても、世界基準に全然のっとってないのは間違いないですね。

その立地の評価という点では、原産会議が何か動いたなんてのは、茨大の元教授の乾さんという方がいろいろ調べてますね。

ただ、彼女は原発っていうよりその原子力全体、東海村をそういうふうにしたというふうな話をしました。

繰り返しますけど、そうは言っても危ないと思ったらやらないわけで、そこに油断があるんですよ、技術者の立場からするとね。

初期の人は結構懸念してたと思うんです。

だけど、だんだんみんなに安全だと言っていると、その技術者集団なりやってる産業界研究会の中で、だんだん頭がぼけちゃって、危ないことを考えなくなるっていうのは、私が見てる見方です。普通感覚じゃ原子力は駄目ですよ。

笹島委員 今、副委員長が言ってたとおり、あれほど大きな福島の重大事故があって、それで今言ってた、何も見直さないっていう、この精神っていうんですか、考え方がわからないですね、一般論で考えれば。

いや本当にそうなんです。普通は見直すんですよ。でしょう、人間なんだから、間違いなく今言ってた人的ミス一回、いろんなミスがあってミスあり得ることで、もうそれ想定して、もうここに立地していったら、ここに事故が起こるってのは想定してって、どこの国でもそうやってますよね。

今言っていた想定して事故があったとき、最小限でとどめておこうっていうのが一般論じゃないですか。

起こり得ないってのは絶対にそれはあり得ないんで。

ずっとそれで来たじゃん、あり得ないミスはあり得ない。

そこはもうあり得るということを前提で考えたほうがいいんじゃないですかと私は思う。

副委員長 それについては、私の見方に物すごく関係してて、要するにまれなことをどう捉えるかっていうのが、結構原子力界は、まぬけと言っちゃ言い過ぎかもしれないが、能力が低いんですよ。だからこういうことになる。

それともう一つは、何か自分がいいと思ったら、もう絶対安全みたいなことをすぐに言うんですよ。

それがまた一つの弊害だと思います。

私が話すとしたら、そういうことも含めてお話ししたいと思います。

なぜそうなって、何が悪いか、で福島があっても見直ししないっていうんですけど、それはそうではないんですよ。

だけど、見直し方が根本を押さえてない。

見学に行ったじゃないですか、東電の名前忘れちゃったけど展示館を見ましたよね。

あれで何が悪いかっていったら津波を見落とした、電源喪失、なぜそうなったかってことはないんですよ。

それだけじゃないってことも抜けてる。そこはね。何ていうかな、事故をこれだけだと、過去に遡ればスリーマイル島の原発事故がありました。

これは福島とか、その後のチェルノブイリよりもずっと軽い事故だったですね。

あれについて日本の原子力委員会が何言っているかって言うと、運転員が未熟だからみたいなことをさんざん言ってたんですよ。

それからチェルノブイリが起きました。

あれは炉の形式が全く違う軽水炉じゃないんですね。

あれは炉形が違うから、それは事実です。

でも、スリーマイルの運転員未熟だっていうのは、勝手に思っていることなんですよ。ね。

そもそも当時の原発の構造上の欠陥が実はあったんです。

それ、今日話すと長くなっちゃうからやめときますが、そういうことを全部抜きにして、それで何ていうかな、過去の事故を小さく根本原因にたどらない、表面的なものだけ見て終わりにしようというのは、今までの原子力界の在り方ですね。

その後、いろいろやってんですよ。

ただ、物すごいね空振りっていうか、例えば、我々も関係したジェーシーオーの臨界事故あったじゃないですか。

あの中で原子力界もやはりひと騒ぎになって、それで相互に相手のまずいことをいろいろチェックしようとかいうネットワークがつけられたんですよ。つけられたことになってるっていうのかな。

だけど、ほんとに自分ところまずいところ、人のまずいところを見つけて、厳しく言って、厳しく対応することやってきたかという、とてもそう思えないですね。

例をあげれば私の身近なところで挙げられますけどね。

そういうところが難しいところだと思います。

そういうところも、話したいと思います。

笹島委員 ちょっと原子力業界自体がなれ合いになっているのかな、そういう指摘するってことしないでしょ、お互いの業界自体。

何か私それ感じる。

プライドは高いですけど皆さんね、そういうことを指摘するようなことってしないような気がするんだな。そうでしょう。やっぱりね。

副委員長 なれ合いという言葉、正しいかどうかわからないんですが、私が経験した例では、私、原子力にほとんど基礎部門だったから関係なかったんですよ。

でもある経緯から、原研が持つて研究炉という小さな原子炉があって、それに関わることになって、私エレクトロニクス関係をやっていたんで、そのトラブル対処で、あるトラブル対処したら、その造り直しも手伝ってくれてことになって、ある電子回路を造り直したんですね。

そしたら、それを新しく造って、業者も造ってテストしたら全くうまく動かない、あるテストに引っかかる。そんなばかなと思ったんですよ。

つまり、あるテストを通ってるのに、別のテストは通らない。

原理上は非常に考えにくいミスなんです。

よくよくどうやってテストしているのか調べたら、入力条件が全く違ってたんです。

つまり、今まで何十年も使ってたテスト用の回路、テスト用の信号を入れ替える回路がとんちんかんだったんですよ。でその後、それで別の回路を造らせた。原研のほかの部門でも同じ回路を使っているって言うんですよ。

でね、教えてやったらいいでしょうって言ったら教えないんですよ。

何かその騒ぎたくない、過去の失敗が引きずってるやつを言わないっていう、それなれ合いっていうのかどうかわかんないけど、ちょっとね。

あと、官庁となれ合いみたいのものがあって、やはりその回路に関してトラブルがあった。

大事故になるようなもんじゃないんですけど、スクラムって言って止めなくていいのに止めちゃったんですね。

報告事項でいろんな報告書を出して、いろいろ理屈考えてやって官庁の許可を得た。

許可っていうか、それでいいでしょって言うところがあとになって違うんだと結論が出た。

問題はその最初に報告した原因じゃないとなったときに、報告出し直さないんですよ。

何でかしたら、一つの僕が聞いた理由は、官庁がもう認めたこれだってことを、認めたことに恥かかせる。

なれ合いついていうかどうかわかんないですけど、そういう部分はありますね。でこっそり直すんです。

委員長 この件につきましては、次回の講師は副委員長ということで、日程は、後で事務局と相談したいと思いますので、講師をよろしくお願いいたします。

あとほかに審議したいことございますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

委員長 本日の議題は全部終了いたしました。

これにて原子力安全対策常任委員会を閉会といたします。

大変お疲れさまでした。

閉会（午前10時44分）

令和4年11月30日

那珂市議会 原子力安全対策常任委員会委員長 武藤 博光